

この資料に聖書的に背教的な内容は含まれていません。
全ては神の言葉である聖書をよりどころとしています。

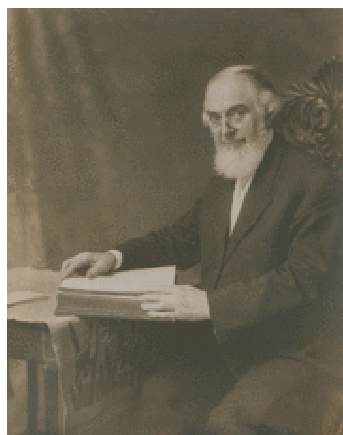


PDFの使い方:

- Ctrl + L で全画面表示。
- ↓↑キーでページを移動。
- Esc で終了。

『預言者がエホバの名において話しても、
その言葉が実現せず、そのとおりにならなければ、
それはエホバが話されなかった言葉である。』

申命記 18:22



- 遠ざかる1914年。
- 西暦前607年の歴史的な根拠。
- 1914年の由来とラッセルの預言。
- 複合的な世の終わりのしるし。
- 終末思想の歴史。
- 決別の時。

JW解約⑤ v.1c by 真理 真 9/11/2007改定

著作権留保 引用資料の著作権:「宗教法人 ものみの塔聖書冊子協会」発行の出版物から引用

http://www.geocities.jp/jw_kaiyaku/

— 組織がもたらす恩恵を認めつつ、この資料が適切な時に、適切な人に、適切な方法で手に渡ることをお祈りします —

現役のエホバの証人の方へ:

「エホバの証人の真理は絶対に正しい！」とおっしゃる方は
このページをプリントなさってサインをして壁に貼っておいてください。

きりとり線

誓約書

私、_____は下記の信条ゆえにエホバの証人が真理を持っている
ことをここに表明します。エホバの証人は神によって任命され、聖書を忠実に
理解しているゆえにこれらの事柄は真実です:

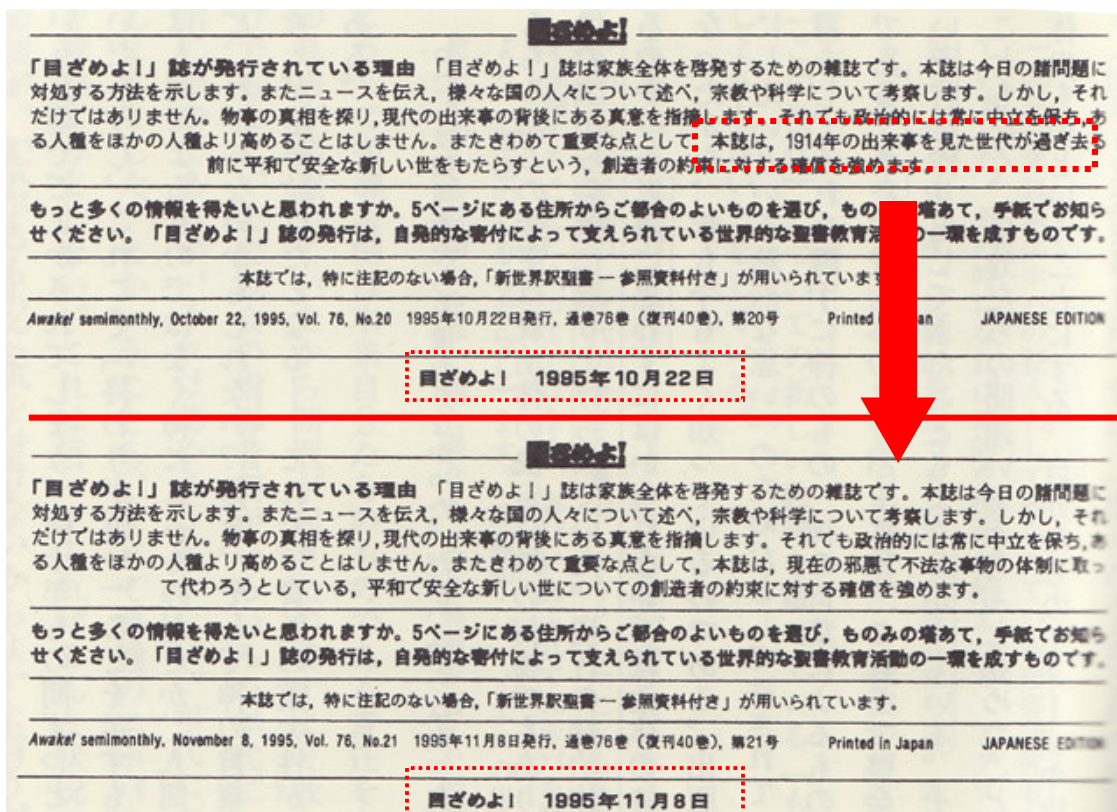
- 1914年に「終わりの日」が始まりました。
- 1919年にイエスは忠実で思慮深い奴隷級を選定されました。
- 天に行く人は144,000人のみで、彼らは初穂として最初に集められました。
- エホバの組織は不都合な情報を隠蔽したり嘘をつくような行為はしません。
必ず誠意を持って成員に適切な情報を教えてくれます。

もし組織がこれらの教義を変えたり反する行動をとるようであれば、それは
真理の根本を覆す事になるので私はエホバの証人をやめます。そして私が
背教者呼ばわりした方々や、蔑んだ末信者の家族、近所、同僚にお詫びを
して回ります。

サイン: _____ 日付: _____

いやいや、本当にサインしないでください。気軽に誓うと偉いことになります。ちなみに2014年まであつたはず...。
あと「14万4千人の初穂」に関しては最近の1935年教理変更でひっくりかえるかもしれないのでご注意ください。
そしてこの「解約シリーズ」を海老名支部や会衆の長老にプリントして渡して回答を求めてください。組織が誠実で
あるならば審理委員会に回される事なく、回答を得られるでしょう。いやいや、本当にやっちゃダメですってば。

遠ざかる1914年

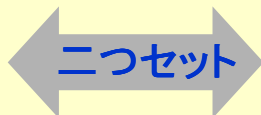


雑誌の発行目的文章からも「1914年」の数字がいつのまにか消えている。

1914年の教義は組織が唯一の真の神の経路とするうえでとても重要です。終わりの日の予言の解釈が正しいからこそJWは統治体を神の経路として受け入れたはずです。

もし彼らが唯一の経路でないのであれば、出版物が提唱している数多くの教理には絶対的な根拠がなくなります。従って1914年は死守されるべき教義であり、唯一の根拠でもあります。そうでなければ1914年を起点として、1919年にイエスによって選別されたと主張することは難しくなるのではないのでしょうか？1914年教義は非常に重要です。

崩れた『親子丼』関係



1914年 ⇒ ×

奴隷級 ⇒ ？

あなたが奴隷級を認めたのは彼らの予言の解釈が正しいからという理由であるはずですが、その根拠が崩れても奴隷級を信じるというのであれば、根拠なき信仰です。卵のない鶏といっしょです。

自分の信じている教理を論理的に説明できないのであればそれは感情的な「盲信」です。

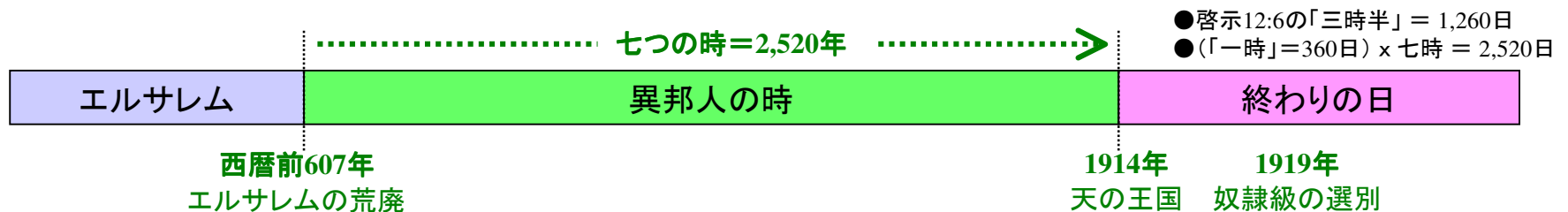
異邦人の時と七つの時

予言解釈: 1914年にイエスの王国が天において確立され、「終わりの日」に突入した。ハルマゲドンは近い。
このような正しい聖書の予言を持ち合わせているのはエホバの証人だけである。「永遠の本」P140参照

- 「エルサレムは、諸国民の定められた時が満ちるまで、諸国民に踏みにじられるのです。」
ルカ 21:24 ⇒ 『異邦人の時』

本当に同じ期間のこと??

- 「あなた方はこの木を切り倒して...七つの時をその上に過ぎさせよ」 ダニエル 4:23



疑問: ダニエルの「七つの時」が現代にあてまはまるという記述は聖書にはない。

■七つの時の予言は王ネブカドネザルに成就したのであり、二重的な意味があるとはダニエルもイエスもいっていません。

疑問: イエスはルカ21章の予言に二重の意味があるとは一切いっていない。

■明らかにローマによる70年のエルサレムの崩壊を予告しているだけです。

疑問: ダニエルの「異邦人の時」とイエスのいわれた「諸国民の日」を結びつける聖句はない。

■イエスは「諸国民の日」の成就の時期がダニエルの予言の計算と関係あるとは一切いっていません。

文字通り書いていないことは全てただの解釈です。

七つの時が始まったという「西暦前607年」には歴史的根拠が全くありません。

■**歴史家、考古学者たちはエルサレムの崩壊は20年遅い西暦前587年としている。**

全ての考古学的証拠がこの年数を裏付けています。統治体も調査の際に確認済みですが公には認めていません。実際に統治体の会議の中でも1914年を改定する案が何度も持ち出されましたが、組織と教理の権威に関わるとして多数決で1票差で可決されませんでした。(⇒元統治体の証言)

■**出版物の中には西暦607年を歴史的に証拠だてている資料がない。**

出版物にはエルサレムが崩壊した考古学的証拠があると論じていますが、実際にそれが607年に起きた証拠があるかどうかには一切言及していません(実際に自分で調べてください)。出版物は他の年数の考古学的根拠には触れていますが肝心の607年に関しては全く扱っていません。唯一でてくるのは洞察Ⅱの「年代計算」P438のところだけです。

矛盾点の詳細⇒ http://www.jwic.com/gentim_2.htm

■**「聖書理解の助け」(「洞察」の前の英語のみの青い本)と1980年の大静粛。**

当時、統治体であり執筆委員長であったレイ・フランズがこの本のプロジェクトを担当しました。彼は執筆調査の過程で組織の提唱する西暦前607年に考古学的な証拠がない事に戸惑いを覚えます。そこでこの本では西暦前607年を肯定する根拠に触れずに、考古学の年代測定法そのものを否定する論法に徹することにしました。(消去法)
しかしフランズはその後疑問を持ち1914年を確証するものがないと会議で再度持ち出したためベテルから追放されました。続いて執筆委員会のメンバーやギリアデ学校の講師も排斥されました。根拠は彼らが主張した事が真実かどうかに関係なく、組織の教理を受け入れるかどうかでした。組織は後に「聖書理解の助け」が背教者によって書かれたという理由をつけて青い本を撤廃し、その代わりとして洞察の本が用意されました。(「良心の危機」)

■**もし計算の起点がずれた場合、終わりの日の起点となる1914年は確定されません。**

■**その場合1919年に組織がイエスによって選別されたとする根拠はなくなります。**

■**本当にイエスは1919年に奴隷級とその組織を選んだのでしょうか？**

終わりの日は本当に始まったのでしょうか？

もし組織が1914年の見解を変えとしても、奴隷級への信仰を保ちますか？

その時のあなたの信仰の根拠は何ですか？

本当に西暦前607年？

西暦前607年におけるエルサレムの滅亡 塔97 6/15 P9-13

聖書は列王第二 25章、歴代第二 36章、およびエレミヤ 39章で、西暦前607年に起きたエルサレムの滅亡について述べ、ネブカドネザルの軍隊が同市を炎上させたことを伝えています。その歴史的な記述は、近年の発掘調査によって裏付けられているでしょうか。イガル・シロ教授によれば、「[バビロニア人による破壊を示す]聖書の証拠は……明白な考古学的証拠により補完されている。すなわち、様々な建造物が完全に破壊され、家屋の様々な木造の部分が大火災で焼き尽くされた」のです。同教授はさらに、「エルサレムで発掘調査が行なわれる度にそのような破壊を示す痕跡が見つまっている」と述べました。観光客は、2,500年以上も前にそうした破壊が起きたことを示す遺跡を見ることができます。“イスラエルの塔”、“焼けた部屋”、“印章の家”などは、考古学的遺跡として保存され、一般に公開されており、その名称は広く知られています。考古学者のジェーン・M・ケーヒルとデービッド・タルラーは、「明らかにされた古代エルサレム」という本の中で次のように要約しています。「エルサレムがバビロニア人による大規模な破壊を被ったことは、“焼けた部屋”や“印章の家”などの建造物の中で発掘された、黒焦げになった残骸の層が厚く幾重にもなっていることだけでなく、倒壊した建造物の砕けた石材がかなりの厚さで東側の斜面を覆っていることから明らかである。この都市が破壊されたことに関する聖書中の記述は……考古学上の証拠を補足している」。ですから、ダビデの時代から西暦前607年に滅亡した時までのエルサレムに関する聖書の記述は多くの点で、過去25年間に行なわれた考古学上の発掘調査によって裏付けられてきました。しかし、西暦1世紀当時のエルサレムについてはどうでしょうか。

出版物ではエルサレムの崩壊が西暦前607年であったと何度も強調しています。しかしそれがなぜ西暦前607年なのかという根拠には一切触れていません。あなたは出版物にある考古学の写真で西暦前607年を証拠づける資料を見たことがありますか？そのような物的証拠の写真はないはずです。

出版物では絶対年代(西暦前539年)を用いているので考古学より正しいという主張しているが...

ゼカリヤ書7:1-5に「この70年間、あなたがたが、第5の月と第7の月に断食して嘆いたとき...。」とあります。それは、ダリヨスの第4年(ゼカリヤ書7:1)で、B.C.517年です。B.C.517年の70年前は、B.C.587(6)年でそれは歴史的な捕囚の年です。(年代は王の即位によるので、B.C.であらわすと1年の誤差が出ます。) 捕囚の年から断食を始めて、70年間に及んでいるのは、自然なことです、しかし、**エホバの証人の主張どおり、B.C.607年に捕囚になったのなら、なぜ、20年後のB.C.587年から断食をはじめたのか説明が付きません。**バビロンの商業文書の粘土板が何十万部も出土して、それに商取引の年月日を書いてありました。それで、現在、バビロンの全ての王の統治期間がわかっています。その粘土板の記録では、**ネブカデネザルの即位の年は、B.C.605年です。バビロン捕囚はネブカデネザルの第19年(Ⅱ列王記25:8)ですから、捕囚の年はB.C.586/7年**となります。

これに対して、エホバの証人は、考古学は信用できないといっていい逃れようとしています。しかし、洞察第二巻の年代学の項(P436)で**商業文書**は信用できるといっています。その証拠に「カンビュセス2世の...支配の第1年は**西暦前529年**で、...キュロス2世のバビロンの王としての最後の年は西暦前530年でした。...。」と、考古学を使わなければ特定できない年代を特定しています。(同P436) これを聖書年代表と照らし合わせてみますと、おもしろいことがわかります。キュロスやカンビュセスはペルシャの王です。つまり、**ペルシャの年代は考古学を取り入れて年代の特定をしているのに、新バビロニア帝国、それもネブカデネザルの年代だけは、考古学を信用できない**といっているわけです。

また、エホバの証人はバビロン陥落の年B.C.539年を絶対年代として、年代計算の土台にしています。その証明のために、洞察第二巻(P437)で、ジャック・フィネガンの「聖書年代学便覧」のオリュンピアドを使っています。しかし、この本には、商業文書でわかった結果の、ネブカデネザルの統治表が載っており、本文でも明瞭にネブカデネザルの即位はB.C.605年だと述べています。したがって、捕囚の年である第19年は、B.C.586年となります。

背山藤枝の資料より抜粋

<http://homepage2.nifty.com/ichikawakita/witness/seiyama.html>

本当に西暦前607年？

◆イスラエル大使館のホームページ(イスラエルの歴史)

<http://tokyo.mfa.gov.il/mfm/web/main/document.asp?DocumentID=29215&MissionID=43>

第一離散時代（紀元前586-538年） - 紀元前586年の第一神殿崩壊後に起こったバビロニア捕囚は、ユダヤ人の離散の始まりであった。バビロニアにおいてユダヤ教は、特殊な思想体系として、国外での生活様式として非常な発展を始めた。ユダヤ人が離散の間も民族として生き残り、精神的な帰属意識を確認できたのはこのためであった。...彼らは、王政時代から**エルサレム崩壊後の100年間まで(紀元前586年)**、神の告知の叫びを上げた。

◆イスラエル通信

<http://www.ijournal.org/IsraelTimes/mepeace/template.htm>

神殿の丘の簡単な歴史的背景 - そしてその子ソロモン王が神殿（第一神殿）を建設したのである。神殿はユダヤ民族の待ち望むメシヤの象徴として崇拝されていた。**ソロモン王の第一神殿(紀元前586年崩壊)**ならびにヘロデ王の第二神殿（70年崩壊）と二つの神殿の侵略者による崩壊事件を経て、ローマ帝国、初代キリスト教会、イスラム教徒、十字軍、イスラム教徒と様々な支配者の手を通して、現在に至っている。ちなみにユダヤ教徒の聖地の嘆きの壁（Western Wall）は唯一残った神殿の西の壁の跡である。

◆ウィキペディア (Wikipedia) ⇒「古代イスラエル」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%A4%E4%BB%A3%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%83%A9%E3%82%A8%E3%83%AB>

属国としてのユダ王国 - 前597年、新バビロニアのネブカドネザルがエルサレムに侵攻し、ヨヤキン王を含めた1万ほどのイスラエル人をバビロンに連れ去り捕虜とした。これは第一回の捕囚と呼ばれる。その後ユダ王国は新バビロニアの属国となったが、10年後にゼデキヤ王が独立を試みる。だが**紀元前586年**にはネブカドネザルによって**エルサレム城壁が崩され神殿は破壊**された。ここにユダ王国は滅亡。

◆The Columbia Encyclopedia, Sixth Edition.

<http://www.bartleby.com/65/ba/Babylcap.html>

Babylonian captivity - in the history of Israel, the period from the **fall of Jerusalem (586 B.C.)** to the reconstruction in Palestine of a new Jewish state (after 538 B.C.). **The prophesied 70 years of captivity were fulfilled when the new Temple was completed in 516 B.C.**

◆Concise Encyclopedia Article (Encyclopedia Britannica)

<http://www.britannica.com/ebc/article-9368526>

Temple of Jerusalem - First Temple was constructed under David's son Solomon and was completed in 957 BC. ... From the time of Josiah, it was designated as the only place for sacrifice in Judah. It was destroyed during the **Babylonian conquest in 586 BC**. When the Jews returned from exile in 538, they built the Second Temple (finished 515).

証拠のない預言解釈からのみ導き出された組織の前607年が正しくて、考古学的証拠に基づくこれらの文献はすべて間違っているのでしょうか？

最初に計算方法を提唱した人々（年鑑1976年 P36-37）

ジョン・A・ブラウン（英国） 1823年に「The Even-Tide」という本で七つの時と異邦人の時を結びつけて2,520年を提唱しました。ラッセルが自分の聖書研究会を開く47年前のことです。又、紀元前604年を起点として1917年に異邦人の時が終わるとしました。

N・H・バーバー ブラウンの著作をもとに自分の予言解釈を1875年9月に「Herald Of the Morning（朝の先ぶれ）」に掲載し、起点を西暦前606年に修正し1914年に異邦人の時が終わるとします。（この時に元年0年がないことに気がつかず一年のズレがでています。それで後に協会は西暦前607年とします。）

C・T・ラッセル ラッセルはバーバーの雑誌を入手（1876年1月）し、やがてバーバーの雑誌の編集者となりました。ラッセルは1914年説をプロテスタントの信者から得たことになります。ラッセルはブラウンの計算法を伝統的に引き継いだけなので、起点となる前607年の根拠を歴史的に確かめる事はしていませんでした。

**質問： ラッセルが1914年説をプロテスタント（長老派）から継承した時、
1世紀から継続して存在していたはずの時宜に適った食物を与える
奴隷級はどこにいたのでしょうか？**

**質問： ラッセルが予言の解釈を奴隷級から得ていないのであれば
彼は誰の食卓から霊的食物を得ていたのでしょうか？**

**質問： ラッセルが聖書だけを調べて真理に達したのであれば
なぜ現在の証人たちは聖書だけから研究をしてはいけないのでしょうか？**

塔81 12/15 P24は「出版物を使わないで聖書だけを使って研究するとバビロンの教理に逆戻りする」と主張。

「グループに分かれて家庭で聖書だけを読んでいれは十分だ、と彼らは言います。ところが不思議なことに、彼らはそのような“聖書朗読”を通してキリスト教世界の僧職者が著わした100年前の聖書注釈書に教えられている背教した教理に逆戻りし、中には12月25日のローマのサトゥルナリアのような、キリスト教世界が行なう祝祭を再び祝うようになった人さえいます。イエスとその使徒たちは、そのような不法の者たちに気を付けるよう警告していました。」

証人たちはラッセルが1914年を神意によりの確に
予告していたと主張しますが、本当なのでしょうか？

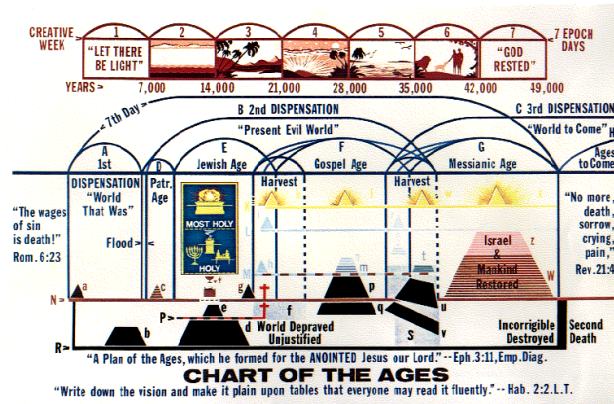
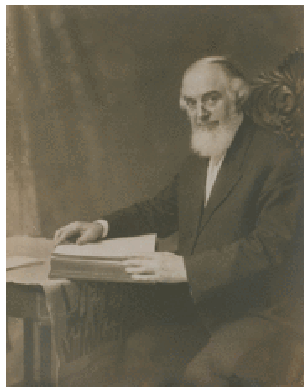
ラッセルが預言していたこと:

- 1878年にイエスが王位についた。
- 1874年にハルマゲドンが始まり、1914年にキリストが異邦人の政府を倒す。
- 1914年に地上のエルサレムはもはや異邦人に踏み荒らされなくなる。
- 1914年に油そそがれたクリスチャン(当時は地上級はいない)が天にあげられる。
- バビロンと呼ばれるキリスト教も1914年に過ぎ去る。
- ラッセルが自分が打ち出した年号は「**神の年号**」だと断言。

ラッセルが預言していなかったこと:

- キリストが1914年に「臨在」するとは一度も預言していない。(臨在は1943年に出了れた教理)
- キリストが1914年に王位に即位するとは預言していない。(1922年に調整)
- 1914年に「終わりの時」が始まるとは預言していない。
(ラザフォードも終わりの時の起点を1799年としていた。)

組織の主張とはうらはらにラッセルは一体何を予見していたのでしょうか？



組織も知っています...

組織は自分たちが1914年に関する預言が外れていたことを知っています。

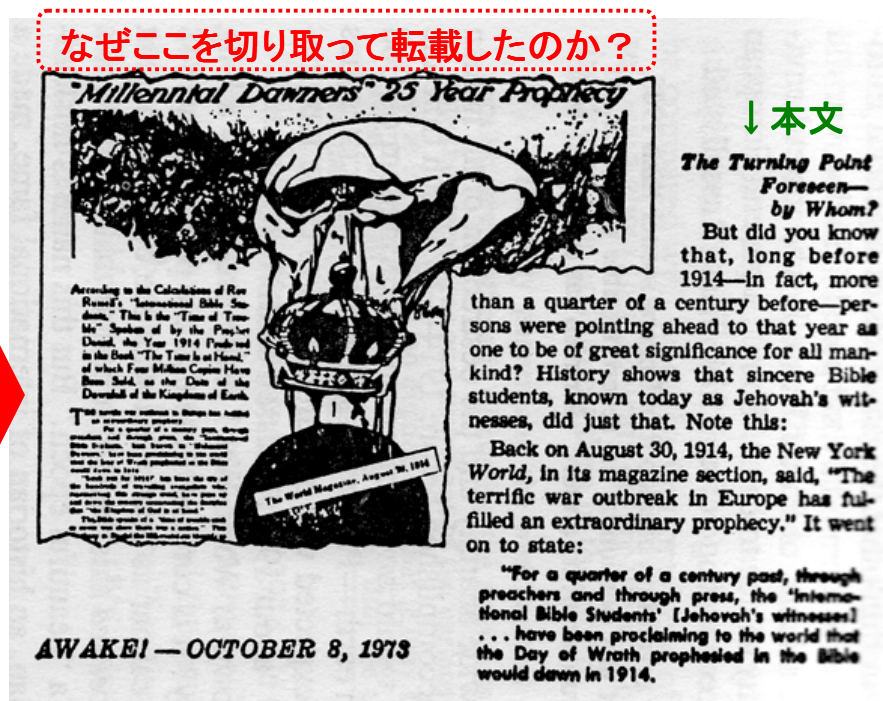
もしかして組織の1914年預言の正確性を信じているのはあなただけですか？

もし最も大切な預言が外れていたのであればあなたは何を根拠に、

これから起こるといわれている預言を信じているのでしょうか？



転載



目73 10/8の本文にはいかに組織が1914年の預言が当たっていたかを説明。その根拠として1914年のThe World Magazineに取り上げられたもののみの塔に関する記事のページを掲載(左)。目ざめよ！に掲載した写真は赤線枠の部分が削除されている。なぜならラッセルの「全ての王国が終わる」という預言は成就しなかったからである。組織が当時の預言内容を隠しながら1914年という年だけを強調するのは常套手段。

数多く打てばあたる？

<http://en.wikipedia.org/wiki/Tribulation>

組織が預言してきた主な年号						
教義の提唱時期	終わりの日の はじまり	キリストの再臨	キリストの王権	14万4千人の 復活	宗教に対する 裁き	大艱難
1879-1920	1799	1874	1878			1914, 1915, 1918, 1920
1920-1925						1925
1925-1927			1914	1878	1878	1914年から 一世代
1927-1930				1918		
1930-1933					1919	
1933-1966	1914	1975?				
1966-1975			1914年から 一世代			
1975-1995				ずっと		
1995-現在						



又、組織は終わりの時に関連してこれらの年数を上げてきました。

1840年、1844年、1874年、1878年、1910年、1914年、1915年、
1918年、1919年、1920年、1925年、1975年、1978年.....

1914年から一世代以内⇒ えーい面倒だから「時代」全部だ！

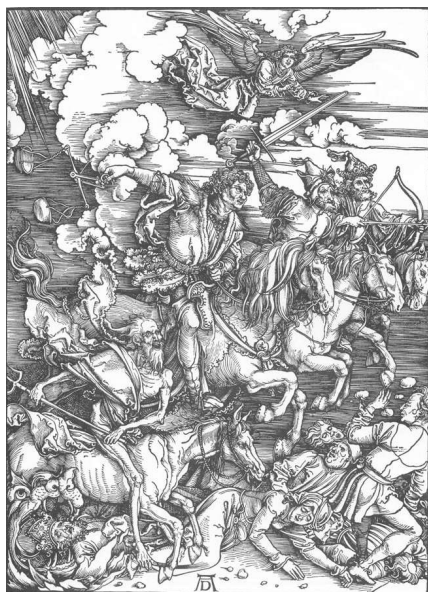
そしてたまたま1914年に第一次世界大戦が起こりました。

これだけ数字を出せば一つは「何か」当たるのではないのでしょうか...？

しかし証人たちは答えます。「例え1914年が間違っていたとしても終わりの日にいるのは間違いなのではないでしょうか。複合的なしるしが終わりを証拠づけています。」

証人たちはマタイ24章とルカ21章の預言が70年のエルサレムの終わりのみに適用されずに現代にも適用されると主張しています。(イエスはそのような事を一言もいっていませんが...)

マタイ24:15-16には「それゆえ、荒廃をもたらす嫌悪すべきものが、預言者ダニエルを通して語られたとおり、聖なる場所に立っているのを見かけるなら、(読者は識別力を働かせなさい、)その時、ユダヤにいる者は山に逃げはじめなさい。」と書いてあるので明らかに1世紀に適用された預言です。ローマが神殿を攻略した時点で成就しています。それが現代の国連に適用されるとかいう解釈はただの推論にしか過ぎません。



「終わりの日」の複合的なしるし:

■戦争

二度の世界大戦。戦争による死者の増加。核兵器。
(といいつつ平和になると「つかの間の平和」だから終わりが近いという。)

■疫病

第二次大戦直後のスペイン風邪。エイズ、癌など。

■飢饉

1914年以降に大幅に見られる食料困難。

■地震

世界的に著しく増加した地震の頻度と被害者数。

■愛の低下

犯罪の増加、離婚率、物質主義、反抗的な若者等。

メモ: 実際のところこれらの統計数字を人類は一貫して記録してきたわけではないので1914年以前と以降を比較することは非常に困難です。今回はこの中で最初の4つの点を取りあげます。愛の低下に関しては主観論が入りやすく数字で実証しにくいのと、一貫した全ての国の犯罪統計を入手するのは困難です。一つだけいうとすればどの世代の間も必ず昔を美化して懐かしみ、今の方が悪くなったという傾向があります。常に昔の政治家の方が汚職が少なく、犯罪が少なく、良い時代だったといいます。あなた自身で実の周りを調べてみると案外と世の中が良くなっている事に気がつくと思いますよ！

それでは実際のところ世の中は本当に悪くなっているのか調べてみましょう...

注意: この資料には様々な統計が出てきますが、それらの数字は基本的に最後のページの本の中から取られています。各本は膨大な量の資料を用いているのでこの資料で割愛させていただきます。また入手しにくい英語の資料でもあるので、一般的な数字(地震、疫病、飢饉、戦争)に関しては図書館で百科事典などを調べる事をお勧めします。

地震は増えたのか①

1982年出版「永遠に生きる」 18章 世の終わりは近い！

西暦856年から1914年までの1,000年余りのあいだに起きた大地震はわずか**24件**で、死者の数は197万3,000人でした。しかし、**1915年から1978年までの63年間には、43件の大地震**があり、合計160万ほどの人が死んでいます。

1985年出版「論じる」 項目: 終わりの日

1914年以後の大地震の発生回数は、実際に重大な意味を帯びるほどのものだったのでしょうか。1984年に、コロラド州ボールダーの全米地球物理学データ・センターから得たデータと幾つかの標準的な参考文献を補足資料として用いた表が作成されました。その表にはマグニチュード7.5かそれ以上を記録した地震、または500万(米)ドル以上の金額に相当する財産を破壊したり、100万人以上の死者を出したりした地震だけが載せられています。**1914年以前の2,000年間にはそのような地震の発生は856回**と計算されています。ところが、**1914年以後のわずか69年間に、そのような地震が605回**あったことを同じ表は示しています。これは、1914年以前の2,000年間と比べて、それ以後の年間平均地震発生率が20倍も増加したことを意味しています。

出版物によって数字が全く違います。一体どのような統計からこれらの数字をとってきたのでしょうか？

地震測定器(Richter Scale)が導入されたのは19世紀なので
厳密には1914年以降と以前の地震の頻度を比較するのは困難です。
しかし現存する入手可能な数字で比較すると...

統計上地震は1914年以降減少しています。

Branch Of Global Seismology & Geomagnetism

National Earthquake Information Center

(地震の統計をとっているアメリカの機関)

17年周期	地震の回数	年間平均
1897-1913	49	2.9
1914-1930	28	1.6
1931-1947	28	1.6
1948-1964	14	0.8
1965-1981	10	0.6

参考: 大きい地震の回数であり震度8以上の地震のみ数えている。

日本における大地震の記録

世紀	回数
9世紀	40
10世紀	17
11世紀	20
12世紀	18
13世紀	16
14世紀	19
15世紀	36
16世紀	17
17世紀	26
18世紀	31
19世紀	27

19世紀以前の地震の統計はがないため
地震の回数を調べるのは大変困難ですが
日本は昔から地震が多かったため記録が
残されています。増えている証拠はありません。

地震は増えたのか②

1914年より地震が増えた根拠として出版物は統計を引用するので真実だと思われるかもしれませんが。しかし統計はどの数字をどのように拾うかによって数が変わってくるので完全に客観的で科学的な数字とはいえません。例えば下記の二つの記事の統計を比較してみてください。目77年と塔83年に掲載された地震による死者の統計数字です。同じ地震に言及しているのに数字が違います。**83年の雑誌の方が被害者数の数字が大きくなっています。**

目77 6/8 P10			塔83 8/15 P7		
1920	中国	180,000	1920	甘肅省(中国)	200,000
1939	トルコ	23,000	1939	エルジンジャン(トルコ)	30,000
1950	インド	1,500	1950	アッサム(インド)	20,000
1962	イラン	10,000	1962	イラン北西部	12,230
1972	ニカラグア	6,000	1972	マナグア(ニカラグア)	10,000
1976	中国	655,235	1976	唐山(中国)	800,000
合計		875,735	合計		1,072,230

参考: 76年の中国の地震に関しては地震直後に香港から65万人~80万人が誤報されたが、最終的に中国政府は**死者数は公称24万人**と発表。

組織は上の資料でウソをついているというよりは、様々な記録の推定数字の中から一番大きい数字を選択しているために統計にズレができています。誰もが自分の理論を証明するのに都合の良い数字を選ぶものです。76年の中国での地震の統計をひとつとっても、中国政府の死者数公称24万人ではなく、新聞に最初に誤報された80万人という推測値を引用してます。出版物の数字は誠実な引用とはいえません。

目77 6/8P10に使われた1914年以降の死者数のリストです。出版物は常に1914年以降の数字を並べていかに規模が大きいが主張しますが、**1914年以前の数字と比較することはありません。**なぜなら比較すると**1914年以前より被害が増したという証拠はでてこない**からです。赤点線枠内が出版物が利用した数字。左側は雑誌が無視した1914年以前の数字です。この統計から見ると1914年以降に地震が増えた証拠はありません。本当に地震は増えているといえるのでしょうか？

A COMPARISON OF EARTHQUAKE VICTIMS					
1715-1783:			1915-1983:		
			(See Awake! February 22, 1977)		
Year	Location	Deaths	Year	Location	Deaths
1715	Algeria	20,000	1915	Italy	29,970
1717	Algeria	20,000	1920	China	180,000
1718	China	43,000	1923	Japan	143,000
1719	Asia Minor	1,000	1927	China	200,000
1721	Iran	100,000	1932	China	70,000
1724	Peru (tsunami)	18,000	1933	U.S.A.	115
1725	Peru	1,500	1935	India (Pakistan)	60,000
1725	China	556	1939	Chile	30,000
1726	Italy	6,000	1939	Turkey	23,000
1727	Iran	77,000	1946	Turkey	1,300
1730	Italy	200	1946	Japan	2,000
1730	China	100,000	1948	Japan	5,131
1730	Japan	137,000	1949	Ecuador	6,000
1731	China	100,000	1950	India	1,500
1732	Italy	1,940	1953	Turkey	1,200
1736	China	260	1953	Greece	424
1737	India	300,000	1954	Algeria	1,657
1739	China	50,000	1956	Afghanistan	2,000
1746	Peru	4,800	1957	Iran (Northern)	2,500
1749	Spain	5,000	1957	Iran (Western)	2,000
1750	Greece	2,000	1960	Chile	5,700
1751	Japan	2,000	1960	Morocco	12,000
1751	China	900	1962	Iran	10,000
1752	Syria	20,000	1963	Yugoslavia	1,100
1754	Egypt	40,000	1964	Alaska	131
1755	China	270	1966	Turkey	2,529
1755	Iran	1,200	1968	Iran	11,588
1755	Portugal	60,000	1970	Turkey	1,086
1755	Morocco	12,000	1970	Peru	66,794
1757	Italy	10,000	1971	U.S.A.	65
1759	Syria	30,000	1972	Iran	5,057
1763	China	1,000	1972	Nicaragua	6,000
1765	China	1,189	1973	Mexico (Western)	52
1766	Japan	1,335	1973	Mexico (Central)	700
1771	Japan (tsunami)	11,700	1974	Pakistan	5,200
1773	Guatemala	20,000	1975	China	200
1774	Newfoundland	300	1975	Turkey	2,312
1778	Iran (Kashan)	8,000	1976	Guatemala	23,000
1780	Iran (Tabriz)	100,000	1976	Italy	900
1780	Iran (Khurasan)	3,000	1976	Bali	600
1783	Italy (Calabria)	60,000	1976	China	242,000*
1783	Italy (Palmi)	1,504	1976	Philippines	3,373
1783	Italy (Monteleone)	1,191	1976	Turkey	3,790
Total 1715-1783:		1,373,845	1977-1983 addition:		44,683
Annual average:		19,911	Total 1915-1983:		1,210,597
			Annual average:		17,545

数字はGanse & Nelson、百科事典などから編成

引用方法の誤用

塔83 8/15 P4-7「地震-終わりのしるし？」

一部の地震学者は、地球は今地震の活動期にあると考えています。例えば、マサチューセッツ工科大学地球惑星科学学部のケイイチ・アキ教授は、1500年から1700年までの期間にも地震は活動的であったが、「過去100年間に大きな地震の規模とひん度が増大したことは明らかである」と述べています。

下記は引用の出典で、アキ教授から組織へ宛てた手紙です。組織が彼に地震は1914年以降増えているのか？という問いに對してのアキ教授からの返答が記されています。

30 September 1982

Watchtower Society
25 Columbia Heights
Brooklyn, NY 11201

Dear Sir:

組織が部分的に引用したところ:

「過去100年間に地震が増えているように見える (apparent = 「明らか」の意味ではない) のはより良い地震の記録があるからである...」

This is in response to your inquiry about earthquakes /EC:ESH September 24, 1982/. The apparent surge in intensity and frequency of major earthquakes during the last one hundred years is, in all probability, due to the improved recording of earthquakes and the increased vulnerability of human society to earthquake damage. The main reason is the well established plate tectonics which indicates a very steady fault motion over the past many millions of years.

A measure of earthquake strength more objective than casualty is the Richter scale. It is in general difficult to assign the Richter scale to earthquakes more than 100 years ago. An attempt, however, has been made in China, where historical records are kept in better shape than in other regions. Enclosed figure shows the Richter scale (M) of earthquakes in China during the period of about 2000 years. The past 100 years are certainly active, but there have been periods as active as that, for example, from 1500 to 1700.

Sincerely yours,

Keiiti Aki

組織が引用せずに無視したところ:
「直近100年は地震が増えているが15-17世紀にかけても同様の活動の時期があった。」

“The Sign Of Last Days-When?” P241
By Carl Olof Jonsoson & Wolfgang Herbst

242 The “Sign” of the Last Days—When?

DEPARTMENT OF GEOLOGICAL SCIENCES
TELEPHONE (213) 743-2717



5 September 1985

アキ教授の主張①:

「ものみの塔には地震が増えていることを示すための資料を送った...」(左の手紙を指して)

Messrs. W. Herbst & C. O. Jonsson
Box 14037
S-400 20 Goteborg
SWEDEN

Dear Messrs. Herbst and Jonsson:

Thank you for your inquiry re my statement in Jehovah's Witnesses. I feel strongly that the seismicity has been stationary for thousands of years. I was trying to convince Jehovah's Witnesses about the stationarity of seismicity using the data obtained in China for the period 1500 through 1700, but they put only weak emphasis in the published statement. Excellent geological evidence for the stationarity has been obtained by Prof. Kerry Sieh of Caltech, for the San Andreas fault.

Sincerely yours,

Keiiti Aki

:jl

TELEPHONE (213) 743-2717

16 June 1986

アキ教授の主張②:

「ものみの塔は自分の都合の良ように私の手紙を引用したのは明らかで、私のメッセージの意図を削除している。」

Wolfgang Herbst
Carl Olof Jonsson
Box 14037
S-40020 Goteborn
SWEDEN

Dear Sirs:

Enclosed please find a copy of my letter to Watchtower Society. Although the first paragraph is somewhat incomplete (the main reason why I believe that the earthquake activity is constant is shortened to "The main reason"), it is clear that they quoted the part they wanted, eliminating my main message.

Sincerely yours,

Keiiti Aki

飢饉は増えたのか①

出版物の曖昧な統計論

ものみの塔の出版物は1914年以降、歴史上最悪の食料不足が生じていると主張します。例えば「八人に一人は栄養不足である」、「四人に一人は十分な栄養を受けられない」といった不思議な統計を出してきます。問題は「栄養不足」とは何を指すのかです。アメリカの栄養基準に照らし合わせてという意味でしょうか？何カロリー足りないとか十分な栄養を得ていないと判断するのでしょうか？そこで次に目安となってくるのは、具体的にどれくらいの餓死が実際に起こったかです。出版物は地震と同じ手法で1914年以降にどれくらいの被害があったかは強調しますが、1914年以前にどれくらいの飢饉があったのかは扱っていません。

1914年以前の飢饉の規模は大きかった

■中国では1810年、1811年、1846年、1849年に生じた飢饉により**4,500万人**が死亡しています。1854年から1864年にかけての飢饉は**2,000万人**の命を奪っています。中国は飢饉の国と呼ばれており紀元前108年より1911年までの間に1,828もの飢饉が起きたことが記録に残っていますが、1949年以来、穀物生産が増加して今では食料不足はほとんどありません。

■インドでは1769～71年の飢饉に**インドの人口の1/3**が死んだと推定されています。1865年から1900年にかけての4つの大規模な飢饉では合計**1,650万人**が命を失っています。1943年には150万人、1974年には30万人の死者を生み出しましたが、現代に入りほぼ自給自足でなりたつようになりました。死者数の規模を比較しても減少している事が分かります。

■ヨーロッパでは10世紀から16世紀にかけて**400もの飢饉**が生じています。**フランスでは1693年に数百万人**が餓死しています。1696年の飢饉では**フィンランドの1/3が死亡**したといわれています。1846年には**アイランドで100万人**が餓死しました。20世紀に入りこのような規模の飢饉はヨーロッパでは起きていません。

■中国では19世紀に人の肉を食べるのが平然と行われていました。中世においてもヨーロッパでは親が子供を殺して食べたり墓地の死体を掘り起こして骨を食べたという記録があります。現在このようなことを行っている国はどれほどあるのでしょうか？

メモ:ここにある数字に関しては独自で図書館などで調べてください。

実際にこれらの統計を自分で調べた信者はほとんどいないと思います。
私たちは盲目的に出版物の主張する数字のみを信じてきました。
そもそも1914年より前からの統計を誰がとっているのでしょうか？
私たちは「世のおわりのしるし」を感覚論でとらえていませんか？



1876年に中国を襲った飢饉では死体を食べるのは日常であった。



1846年にアイルランドを襲った飢饉では100万人が餓死。ヨーロッパ最後の最大の飢饉となる。

飢饉は増えたのか②

専門家は飢餓に関してなんといっているか...

「いつの時代にも、また、いかなる地においても、人々は飢えを経験してきた。...しかし平均して、**着実により質の高い常食を確保する様相を帯びてきている**ことは事実だ。...確かに今日の人々は平均的に、100年前より食料が備えられている。」 **Biology of Human Starvation, St Paul, 1950, P3,12**

「飢えを許してはならないあくと考える今の世の中は、飢餓や貧困が一世代前の人々にとってずっと続いていた生活状況であったことをなかなか理解できないであろう。...食料不足が長年にわたって全世界の悩みであったころの生活は、**現代の状況で暮らす人々には想像も及ばない**ものであった。」 **E. Parmalee Prentice-Hunger and History, The Influence of Hunger on Human History, Caldwell, Idaho, 1951, P10, 137**

「幾世紀にもわたって、飢餓は常習的な現象であり、当然やってくる災難とみなされていた。...しかし、あらゆる面から考えても、前の時代の発生頻度は、**今日の世界のほとんどすべての居住地域と比較にならないほど多かった**ようである。」 **Colliers Encyclopedia, New York 1979, P552-553**

「史上初めて人類は貧困とそれに伴う飢えを止めることが可能になった。飢えの撲滅はもはやただ理想的なユートピアではなく、実際に実現できる目標となった。」 **The Geopolitics Of Hunger, New York, 1977, P447, 448**

「過去30年において、世界中における一人あたりの食物の消費量は上がっている。...**飢餓による死者数は絶対的に数字のいても、人口母数における比率のいずれにおいても減少**している。食料の価格は近代に入り下がっており...この現象はさらに続くことを我々は確信できる。」 **Julian L. Simon and Herman Kahn - The Resourceful Earth, London, 1984**

「我々はテレビ、雑誌、新聞などの視覚的な情報から、世界中において飢餓が増えているという印象を持つかもしれないが、実際にはその反対である。**今世紀に入り飢餓の被害は大幅に改善**されている。」
Food Expert professor D. Gale Johnson - World Food Problem and Prospects, Washington D.C., 1975, P17

現代はテレビ、新聞、雑誌などの発達によりアフリカなどの飢餓の映像が目に飛び込んできます。それで世界中に飢饉が広がっているかのような印象を受けますが、実際には1世紀前よりも事態は改善されてきています。実際に図書館にいて自分で調べてみるといいかもしれません。

疫病は増えたのか

1914年以前の疫病はよりひどかった

■出版物はエイズや癌を世の終わりのしるしとして引き合いにしますが、これらは「難病」ではありますが**エイズや癌は「疫病」ではありません**。疫病とは「悪性の伝染病」の事です。

■20世紀初期ではヨーロッパだけで毎年100万人が結核により死亡していました。世界的に見ると**結核による死亡者数は大きく改善**されてます。(後進国は改善の余地あり)

■医療専門家は1918年におけるスペイン風邪は「近代にける最も破壊的な流行病」と見ていますが、歴史においては必ずしも**初めてではなかった**事に同意しています。

■目ざめよ！はスペイン風邪の方が黒死病より破壊的であったと主張します。なぜなら黒死病は3年かけて6,200万人死亡しましたが、スペイン風邪は4ヶ月の間に2,100万人が死んだからだといいます。しかし！**実際にはスペイン風邪は一年続いたので、黒死病も3年で割るとほぼ同じ死者数になります。出版物は統計の数字を都合の良いほうに誤用します。**しかも**黒死病の時は人口が1918年に比べて1/4でしたので死亡率に大きな差があります(黒死病は14%=6,200万人/4億5千万人、スペイン風邪は1%=2,100万人/18億人)。**

■目ざめよ！8/1/83号は「アフリカでは毎年5歳以下の子供たち100万人がマラリアのために死んでゆきます...全世界では1億5,000万を超える人々が...マラリアの症状...に悩まされています」としていますが1914年以前の事には触れていません。過去には**世界人口の1/3がマラリア**にかかっていた時代がありました。

■19世紀に世界を襲った**コレラの死亡率は50~80%**でした。インド、ロシアから始まりヨーロッパ、アメリカを7年に渡り恐怖に陥れ、最終的には**1億人以上の死者**を出しました。

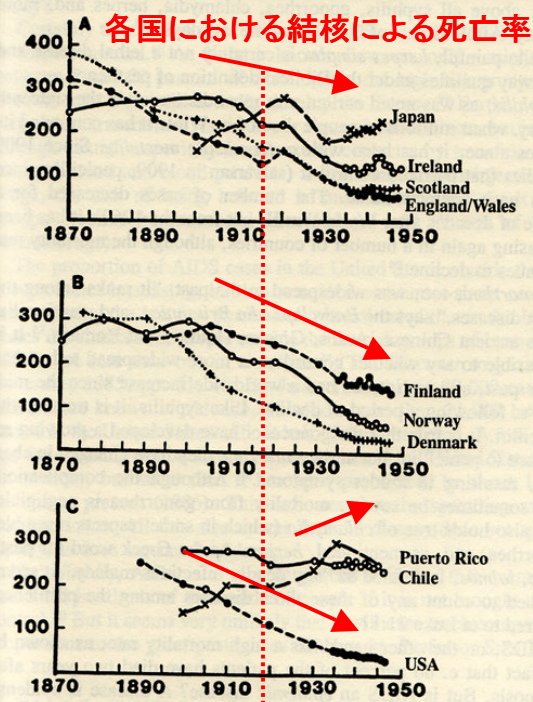
■はしか、水ぼうそう、梅毒は16~19世紀にかけて蔓延していました。**アメリカの先住民やアステカ人全体を瀕死状態**に追い込みました。これら猛烈な破壊力を持っていた伝染病は今では予防接種のために過去のものとなりました。

■**19世紀以前は人の平均寿命は20~30歳とされていましたが、現在では70歳以上が標準です。**みなさんも教科書で江戸時代の平均寿命が40歳ぐらいだったので12歳で成人式を行ったと習いませんでしたか？本当に疫病は蔓延しているのでしょうか？



1846~62年の長期間に渡ってヨーロッパを襲ったコレラ。

DECLINE IN TUBERCULOSIS MORTALITY, 1870-1950



世界大戦は特別？①

実際に1914年の世界大戦は規模の大きい戦争で大きな転換点でもありました。
問題なのは出版物はしばしば専門家の声を引用しますが、大抵都合の良い部分だけ切り取ってきます。
また様々な数字を掲げますが自分たちにとって都合の良い数字のマジックを使います。
統計学というのは数字なので信用できそうに見えますが、実際には数字の見方に主観が入るので
答えは分析者によって変わってきます。皆さんも数字は鵜呑みにしないようにしましょう。⇒ライブドア決算と同じです(笑)

出版物は権威の声を都合の良いように引用します。

■ 1981年に発行された「王国が来ますように」のP115

引用部分: 「第一次世界大戦は歴史の大異変の一つであった」ーバーバラ・タッチマン著、「ガンズ・オブ・オーガスト」、1962年
実際の原典: 「フランス革命と同様に、第一次世界大戦は歴史の大異変の一つであった。」

引用部分: 「1914年に世界は結合力を失い、以後それを取り戻すことに成功していない。...この時代は国境の内外において
著しい無秩序と暴力の時代になった」ーエコノミスト(ロンドン)、1979年8月4日号

実際には: 1914年以後と1789年以後との間には、戦争、無秩序、暴力などに多くの共通点があることを論じている。

出版物が提示する数字はどこまで信用できますか？

■ 1961/2/22目ざめよ！P6

第一次世界大戦で死亡した人数を3,750万人以上が死んだとしています。その出典は1946年の世界年鑑となっていますが、ここで
出版物が明らかにしていないのは、この3,700万以上の数には戦争に直接関係せずに死んだ人、例えば飢饉やスペイン風邪などの
病気で死んだ人の数が含まれている事です。

■ 1983/10/8目ざめよ！P12では、この数はほとんど半分に減らされて、死者の数は約2,100万人となっています。

■ 1971/10/8目ざめよ！P16では、死者の数約1,400万人としています。⇒ 歴史的にも実際には1,400万人が妥当と思われる。

<http://www.jwic.com/war.htm>



組織は自分の主張を正当化するために二つの方法を用います。

①文章引用の歪曲。 ②統計数字からのご都合主義な切り出し。

(どこかの企業のマーケティング営業資料とあまり変わらないですな...笑)

世界大戦は特別？②

出版物は世界第一次大戦はそれまでの2,400年間における主な戦争を足したよりも7倍の死者を生み出したと主張します。しかし本当にそうなのでしょうか？**下の死者数を足して見てください。**

また重要な事として歴史家は他の戦争も「世界大戦」規模であった事を認めています。第一次世界大戦は便宜上「世界」とつけられましたが、実際にはヨーロッパでの戦争でした。少なくとも出版物がいうように全ての歴史家が一致しているわけではありません。

第一次、第二次世界大戦に参加し、重要な役割をになったモンゴメリー元帥：

<http://www.jwic.com/war.htm>

「しかしながら、全てを考慮すると、ヨーロッパの外での戦いは、戦略的な重要性は少ししかなかったと言える。**1914－1918年の戦争は、本質的にはヨーロッパ戦争であった。**これは後に「世界大戦」と呼ばれるようになったが、その理由は、大英帝国の多くの植民地が参加したこと、1917年にアメリカ合衆国が協商国として参加したことによる。しかし、実際には海軍の役割はおおむね受け身的であり、この戦争は、それ以前の幾つかの戦争、たとえば**七年戦争と比較すると、「世界戦争」の度合いはより少ない**と言える。」(Viscount Montgomery, A History of Warfare, Collins (London 1968) p. 470)。

■三十年戦争(1618－1648)

これはヨーロッパの10ヶ国を巻き込む国際戦争であったが、兵士の死者の数は200～300万人の間と推定されている。...当時の**ドイツ国民の30－40%に当たる700～800万人の市民が死亡**したと考えられている。(ドイツでは**第一次世界大戦を凌ぐ死者数**。)

■清による中国平定(15世紀)

中国東北部に14世紀後半に建国された清の国は、15世紀に入ると南下して、明の国が支配していた中国を北から南にかけて征服していく。この過程で、清は容赦ない大量殺戮を行ったと言われ、**死者の総数は約2,500万人**と推定されている。

■ナポレオン戦争(1792－1815)

この戦争ではほぼ第一次世界大戦と同じ数の国が参戦したが、フランスだけで死者の数は約200万人と推定されており、23年にわたった戦争全体の**死者は500～600万人**と推定されている。

■太平天国の戦乱(1850－1864)

これは19世紀の清が支配する中国に起こった、満州人支配に反発する中国農民の大規模な内戦であった。歴史家はこの戦乱を「19世紀全体の歴史の中で最も破壊的な戦争」と位置づけており、その**死者の総数は2,000～3,000万人**と推定されている。1982年3月22日の「目ざめよ！」誌の記事ではこの運動による死者を「**多分4,000万人に上る**」と書いている。何と、このもののみの塔の出版物自体が認める死者の数だけをとっても、第一次世界大戦の死者の総数の四倍近くになってしまう。

■ロペツ戦争(1864－1870)

南米で起きた19世紀の大戦争で、パラグアイが、アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジルの連合軍と戦ったもので、パラグアイの人口の80パーセント以上が殺されたと言われ、**死者の総数は200万人**を越えると推定されている。

あれ、そんなに多くていいの？

世界大戦は特別？③

歴史家は他にも歴史的な転換点があったといっています：

■西暦5世紀のローマ帝国の衰退について：

<http://www.jwic.com/war.htm>

この時期は世界の**歴史の重要な転換点**の一つであった。(Dupuy & Dupuy 1970, p166)

■18世紀の終わりに始った産業革命について：

どのような計算に基づいたとしても、これ(産業革命)は農耕と都市の形成以来、世界の歴史の中で多分最も重要な出来事であった。(E.J.Hobsbawm, The Age of Revolution (London 1962), p29)

■1789年から1799年のフランス革命について：

フランス革命は近代ヨーロッパの生活の中で最も重要な出来事であった。...今日、20世紀の半ばにおいて、それほど老齢でないわれわれの生きている時代に経験した全てのことにもかかわらず、またここアメリカでも、あるいは昔の支配的地位を失ったヨーロッパの国々を含む他の世界でも、18世紀の終わりに起きたフランス革命は、**近代文明の偉大な転換点**であったとすることができるのである。(George Lefebvre, The Coming of the French Revolution (New York: Vintage, 1947), 著名な歴史家R.R. Palmerによる序文から)

■1904年から1905年の日露戦争について：

心理的にも政治的にも、この戦争における日本の勝利は、**世界の歴史において転換点**を記したのであった。(Dupuy & Dupuy 1970, pp926,1014)

■1945年の広島原爆投下について：

この時期の終結の時点で、兵器の新しい時代、**歴史の新しい時代**がもたらされた。1945年8月6日の広島への最初の原爆投下は、核時代の開始を告げた。(Dupuy & Dupuy 1970, pp926,1014)

出版物は「最初の総力戦争」だったといいますが...

■永遠の命に導く知識 P100

「試練を受ける世界－1914－1919」と題する本はこう述べています。この戦争は「新たな規模の戦争、人類が経験した**初の総力戦**となった。その期間の長さや激しさ、規模などは、以前に知られていた、あるいは一般に予想されていた戦いを凌いだ」。

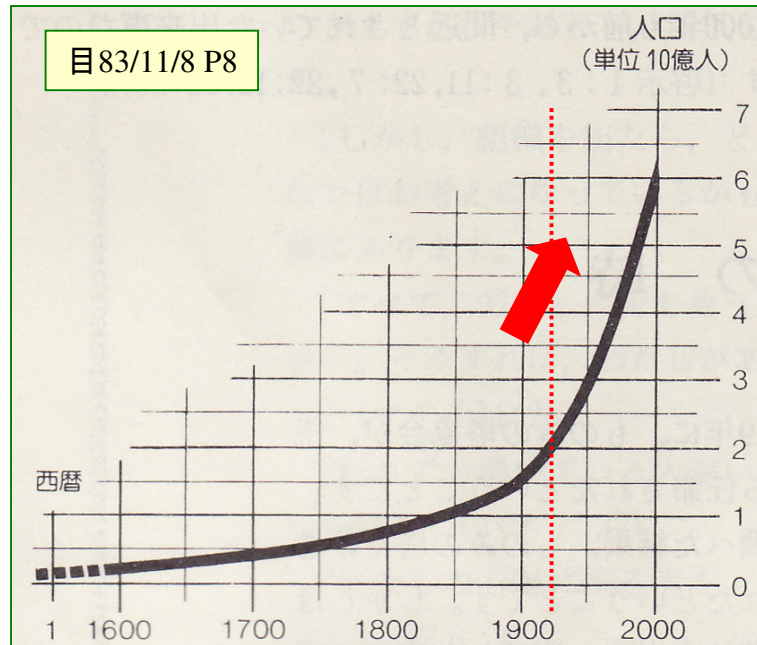


■しかし著名な歴史家Cyril Fallsは、第二次世界大戦を論じながら次のように述べています：

「政治の側では、この戦争は更に「総力戦」へと進んでいった。この「**総力戦**」の概念は**ナポレオン戦争の時に始った**と考えられている。」

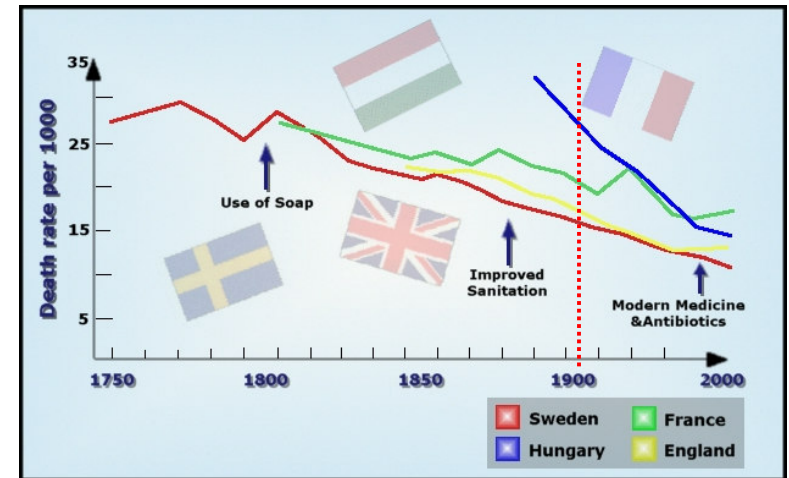
少なくとも全て歴史家が一致しているわけではありません。

人口爆発が示すもの



1950年から40年以内に人口は25億人から50億人へと一気に2倍に増加しました。人口が著しく増加したのは20世紀に入ってからです。(自分の教科書をチェック！)

http://www.globalchange.umich.edu/globalchange2/current/lectures/human_pop/human_pop.html#Past



1700年からのヨーロッパにおける統計ですが4カ国(4本の線)において死亡率が低下しているのが分かります。

組織の主張通り、歴史的に最大の規模で戦争、疫病、飢饉、地震が起きているのであれば死亡率が一番高くなっているはずです。

20世紀後半になって歴史上かつてない程に人口が爆発的に伸びているのは本当に世の終わりの複合的なしるしの結果なのでしょうか？

それともエホバはハルマゲドンにより沢山の人を滅ぼせるようにわざと人口を増やしているのでしょうか...？
というより、そこまでしてあなたは本当に60億の人々は死に値すると真剣に思っているのでしょうか？
ヒトラーのホロコーストより怖いことをあなたは信じているのですね...。あなたのいう「神の愛」は怖いです。

簡単にまとめると

- 1914年の起点となる前607年に根拠はない。
- 1914年が確定しない以上は奴隷級がいつ選ばれたのか分からない。
- 複合的なしるしは起きていない。(イタタタ...)

~~地震の増加~~ ~~飢饉の増加~~ ~~疫病の増加~~ ~~戦争の増加~~

しかも...

- 出版物は外の資料から引用する時に原文の意図を歪曲する。
- 出版物は都合の良い数字を都合の良いように料理して出す。

それでも真理なのですね...。では2ページの誓約書にサインしてください。
エホバは期待を裏切りませんが、組織は期待を裏切ります。

今ある教理を「真理」だとして、それを受け入れないとハルマゲドンで滅ぼされると主張される現役の皆さん、あなたの救いの根拠は10年後には大きく変わっています。つまり信じている内容はなんでもよくて、結局組織への従順のみが救いの基準であるということです。それがイエスの教えられた従順ですか？真実を愛する事が真理の基本です。そうでなければただの盲信であり、妄信へと駆り立てられます。

そしてあなたはこういう背教的な考えは聞きたくないといいますが、こちらイエスの命令に従って真実を宣べ伝えないとはいけません。例え背教者と呼ばれてもです。え？こんな人は迷惑？

でもあなた自身が毎日奉仕に出て各信条を持った人々に背教活動を行っているようなものです。今の言葉を聞いて恥ずかしいと思った方は、「訪問お断り」の区域カードを密かに捨ててあげてください。恥ずかしいと思わないあなた...、その義のツラの厚さにこっちが恥ずかしくなります。

終わりの日は今？

塔81/9/1 P28-30

「その後に、わたしはわたしの霊をあらゆる肉なる者に注ぎ、あなた方の息子や娘たちは必ず預言する。あなた方の年寄たちは、夢を見る。あなた方の若者たちは、幻を見る。そして、その日には、下男や下女たちの上にもわたしの霊を注ぐ」—ヨエル 2:28, 29, 新。この二つの節は、**ペテロがペンテコステの日に引用したために、ヨエルの預言の中では確かに一番よく知られている部分です。**(使徒 2:14-18)ヨエルの預言の信憑性をイスラエル人自身が疑ったことは一度もありません。ヨエル書はイスラエル人の正典の中で早くから誉れある位置を占めています。その信憑性をさらに裏付けるものは、使徒ペテロとパウロがヨエル書を引用しているという事実です。またティルス、ペリシテ、エドムなどに関する同書の預言が成就したことも、その信憑性を確証するものとなっています。—使徒 2:14-18。ローマ 10:13。

使徒2:14-18

¹⁴しかしペテロは十一人の者と一緒に立ち上がり、声を上げて彼らにこう発言した。「ユダヤの皆さん、そしてエルサレムの住民のすべての方たち、このことを知ってください。わたしの言うことに耳を向けてください。¹⁵ 実際に、この[人たち]は、あなた方が思うように酔っているのではありません。今は昼間の第三時なのです。¹⁶ それどころか、これは**預言者ヨエルを通して言われた事柄です。**¹⁷ 『神は言われる、「**そして終わりの日に、**わたしは自分の霊の幾らかをあらゆるたぐいの肉なる者の上に注ぎ出し、あなた方の息子や娘たちは預言し、あなた方の若者たちは幻を見、老人たちは夢を見るであろう。¹⁸ そして、わたしの男奴隷の上にも、女奴隷の上にも、わたしはその日に自分の霊を注ぎ出し、彼らは預言するであろう。¹⁹ またわたしは、上は天に異兆を、下は地にしるしを、血と火と煙の霧とを与える。²⁰ エホバの大いなる輝かしい日が到来する前に、太陽は闇に、月は血に変わるであろう。²¹ そして、エホバの名を呼び求める者はみな救われるであろう』」。

1世紀の使徒たちにとって「世の終わり」とは当時の1世紀を指していました。

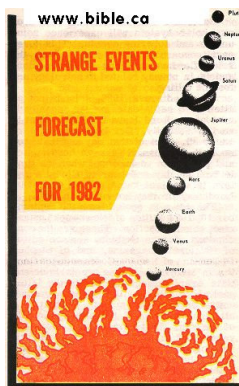
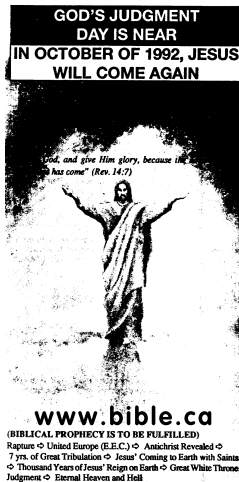
それは現代に適応されていたわけではありません。

イエスも弟子も自分たちの預言が2,000年後に適応されるとは一言もいっていません。預言の雛形だとかいっているのは組織だけです。

神の言葉を踏み越えて拡大解釈し、ほかの信条を持つ人々を糾弾するのは神と聖霊に対する冒瀆にならないでしょうか？

終末思想の歴史

聖書の年代を使って世の終わりの日を導き出そうとしたのはものみの塔だけではありませんでした。これらはほんの数例です。果たして本当に当てた人は誰でしょうか？



成就の時	理由
44年	ヨセフスに記録されているTheudasという人物が自らメシヤと名乗り400名を荒野へ。
130年	ガリラヤのラビJoseがエルサレムの崩壊(70年)から三時(60年)数えて預言が成就すると主張。
400年	Hippolytusは、アダムとイエスが5,500年前にわけ隔たのと、6,000年で安息の年に入るので終わりが近いと主張。
400年	2世紀のラビであるDosaが創世記15:13(アブラハムに対する預言)にもとづいてメシアの到来を予言。
500年	3世紀のローマの僧職者がノアの箱舟の寸法からこの年にキリストが戻ってくると預言。
990年	St.Hilaire教会で暴動が起きたときに終末思想が高まる。
994年	終わりの時のしるしが沢山みられた。飢饉、病気、サクソンの道德崩壊。
1000年	世の終わりが最も期待された年。
1003年	1000年+3.5年の反キリストの時が来たと主張。
1005年	ヨーロッパでの大規模な飢饉により終末思想が高まる。
1006年	スーパーノバ(超新星)の出現と、同じ年に皇帝の僧職者がユダヤ教に改宗したのを受けて特別な年のように思えた。
1010年	Brythfirdが千年王国が終わったと宣言。
1030年	大規模の飢饉がフランスを襲う。このころ啓示の預言が成就しているように見える現象が起きていた。
1033年	キリストの十字架から1000年たったので終末思想が高まる。Deacon Of Orleansという団体がエルサレムへ集団移動を行う。当時起きた地震や月食が預言を成就させているかに思えた。
1260年	Joachim Of Fioreという僧職者がこの年に「霊の時代」が始まると預言。1229年にFrederickがエルサレムを獲得するとこの預言は当たったかのように見えた。
1415年	The Taboritesという団体がキリストがタブルの山に戻ると主張。
1533年	三時半の後に世の終わりが。マーティン・ルターも信じており仲間に自分の持物をあげてくるように強要。
1572年	Benedictus Aretius Of Berneがコンスティニュウスがキリストを国教と宣言した312年に1260年を足す。
1656年	コロンバスが世の終わりを唱える。
1666年	666という数字がつくので世の終わり騒動が。ロンドンで大火事が起き世の終わりムードが高まる。
1715年	アイザック・ニュートンがイエスの再臨を予想。
1836年	メソジストの創始者John Wesleyが1000年期が始まったと主張。
1843年	William Millerはイエスの再臨を預言。1833年にあった規模の大きい流星群がこの千年王国運動を飛躍させた。
1859年	マサチューセツの僧職者、Thomas Pakerは千年王国が始まると主張。
1874年	目に見えないイエスの再臨をものみの塔が預言。
1910年	ハレー彗星の出現により終末思想が高まる。
1914年	ラッセルがイエスの再臨を預言。

もっと遠ざかる1914年

塔5/1/2007 P30「読者からの質問」

1800年代の終わりと1931年にかけて、宣べ伝える業の主な目的は、キリストの体を構成する残りの者たちを集めることでした。1931年に聖書研究者たちは、エホバの証人という、聖書に基づく名称を採択し、「ものみの塔」誌(英語)、1933年11月15日号で、頼まれなこの名称はマタイ 20章1-16節のイエスのたとえ話で言われている「デナリ」である、という考えが示されました。そして、そのたとえ話の中の12時間は1919年から1931年までの12年間に相当する、と考えられました。その後何年もの間、天の王国への召しは1931年に終了し、キリストと共同の相続人となるよう1930年と1931年に召された人々が「最後の者」である、と思われていました。(マタイ 20:6-8)しかし、1966年に理解が調整され、そのたとえ話は油そそがれた者として召されることの終わりとは関係がない、ということが明らかになりました。

1935年に、啓示 7章9-15節の「大群衆」は「ほかの羊」、つまり地上の希望を抱くクリスチャンたちで構成されている、ということが分かりました。「終わりの日」に世界の舞台に登場し、一つの集団としてハルマゲドンを生き残る人々です。(ヨハネ 10:16。テモテ第二 3:1。啓示 21:3, 4) その年以降、人々を弟子とする業の主な目的は、大群衆を集め入れることに変わりました。そのため、特に1966年以後、天への召しは1935年に終わったと考えられるようになりました。1935年以降にバプテスマを受けた人のほとんどすべてが自分は地上の希望を抱いていると考えていたため、その説明は確かであるように思われました。それ以後に天の希望へと召された人は、不忠実になった油そそがれたクリスチャンの代わりに補充された人、と考えられました。

もし油そそがれた者の一人が悪行を悔い改めずに離れ落ちるなら、エホバはその人の代わりとなる別の人を召される、ということに疑問の余地はありません。(ローマ 11:17-22)しかし、真の油そそがれた者

で不忠実になった人の数は、多くはないと思われます。一方、時たつうちに、1935年以後にバプテスマを受けたクリスチャンの中にも、自分は天への希望を持っている、と霊によって証しされる人が出てきました。(ローマ 8:16, 17)したがって、天への希望を抱くようクリスチャンを召すことがいつ終わるかに関して、明確な時を述べることはできないように思われます。

塔5/1/2007年の天的級に関する記事には「1914年」と「144,000人」という二つの最も重要な数字すらでてきません。

「永遠」の本ではP137から4ページ以上にわたり年代計算に関して説明をしていますが、「聖書は何を教えているか」ではP216 から参照として2ページしか扱っていません。

組織は「1914年」と「144,000人」という数字から密かに遠ざかろうとしています。

それとも置いてきぼりをくらっているのはあなただけですか？
あなたは世の終わりと天的級(奴隷級)の予言が正しいからこそ組織が真理を持っていると信じていたのではないのでしょうか？

もし組織が「1914年」と「144,000人」を新しい光によって否定するならあなたの信仰の根拠はどこにありますか？

あなたはこれからも変わるであろう「音信」を唯一の真理として宣べ伝えられますか？

今信じている真理が全て変わりうるのであれば、
あなたは何を根拠に組織の教理に信仰をおいていますか？
くるくる変わる真理を宣べ伝えるのが真の組織ですか？
エホバは本当に根拠のない従順を求めておられますか？

組織： 預言はその時が終わった後に振り返ってはじめて意味が分かる場合がある。

疑問： 終わった後に分かる予告ほど役に立たないものはないのではないかと？
(事故にあってから標識がでてくるようなものです)

組織： 民を導く責任は奴隷級にあるので、信者は間違っているとしてもエホバから責任を問われない。
だからたとえ100%同意できなくても従順に従うべきである。

疑問： それではヒトラーについていったナチスの隊員は責任を免除されるといってようなもの。
どのような状況であれ各信者はエホバに対して一人一人言い開きを求められる。
祭司が腐敗していた時、サムエルは間違った事柄に従順であつたらうか？

組織： 統治体は完全ではないので間違いをおかす時もある。

疑問： 日常における間違いはかまわないが、預言解釈を「個人的な見解」でなく
「神からの言葉」として語っている場合はそこに間違いをおかす余地はない。
もし神からの言葉でなければ、なぜそこまで信じないといけないのであろうか？

組織： 統治体だけでなく、イエスの弟子たちでさえ間違った期待を持っていた。

疑問： 弟子たちは間違った期待を神からの預言として人々に語ったことはない。
単純に個人的に思い違いをしていてイエスにたしなめられたただけのことである。

組織： たとえ預言が間違っているとしても、愛と伝道を実践しているので真の組織である。

疑問： 愛と伝道さえ実践すれば聖書に忠実でない「真理」を信じていてもよいのか？

組織： なんであれ奴隷級への従順と謙遜さをエホバは一番評価なさる。

疑問： その前に誰が正しい奴隷級か見極める必要があるのでは？
神の名において預言を語りそのとおりに起きないのであれば本当に神の組織？

なぜ神は戦争などの問題に介入されないのだろうか？答えは簡単です。
人間にはこれらの問題を解決する能力が与えられているからです。
それをサタンの問題のせいになっているのは責任転換です。
子供が部屋を片付けられる能力があるのに親が片付ける必要はありません。

社会の基本は家族⇒近所⇒国⇒世界です。もしあなたが身近な人との争いを止められないのであれば、
当然戦争も止める事はできません。あなたは自分のできる範囲で常に平和を求めていますか？
では違う信条を持った人々(あなたが背教者とよぶ人を含めて)をあなたは受け入れられますか？
宗教紛争の小さい種をあなたは日々撒いていませんか？必ず刈り取ることになります。

飢饉も止める事はできます。食料が正しく分配されていないのが原因です。では私たちは日々の
資源を無駄に浪費しているのをやめられますか？食物に関わらず「より多く」求めるのをやめられますか？

地震のような災害は、我々人間が自然破壊や霊に対する認識・感謝の欠如を通じて、地球のバランスを崩すこと
によって起きます。地震は地球のくしゃみみたいなものです。ではあなたは自然破壊に加担しないように生活できますか？
紙やペットボトルの過剰消費、アイドリングをやめられますか(証人たちはかなり無駄に膨大な紙を消費しています。)？
そして、地元の霊、自然の霊に対して感謝の念を捧げられますか？霊にも礼儀ありで、近所づきあいのようなものです。

癌も含めてほとんどの病気は本人の心の病から来ます。魂を抑圧しエネルギーが滞るとバランスを
とるために体を通じてメッセージが送られてきます。又、口では病気はいやだといいながら潜在的には
病気である事を望んでいる証人たちに思い当たりませんか？常に病気の話ばかりしていて元気な人を見ると
「なんで姉妹はそんなに元気なの？」という人たちのことです。いやいや、元気なのが当然でしょ。
実際問題、難しい病気や死はありますが、私たちが死のプロセスを理解すれば死に対する概念は変わります。
死が怖いから生きている事も恐くなるのです。死は私たちの故郷への帰国です。息を吸い込む事により
物質の生命が始まり、息を吐くことにより霊的故郷へ戻ります。
これが物質界のサイクルであり、リズムです。全ては今のままで「完全」です。

人類全ての問題はすべて「不安」から生じます。
いつも資源が不足すると考えて確保・所有しようとし奪い合います。石油、水、領土から
受験戦争、企業戦争、あげくの果てには恋人の愛に至るまで競争していがみ合います。
さらに人類は「神の愛にでさえ限界がある」と考えています。だからこそ、
この限られた「神の愛」をめぐる論争を繰り返します。
あなたは「神の愛」は全ての人に行き渡ると思いませんか？

もっとも、これらのJW解約資料シリーズも
10年後には役に立たなくなっていることでしょう。
なぜなら今ある教理は全て変わる運命にあるからです。
従って反論方法も変わっていかざるをえません。

(といっている矢先にいきなり1935年ひっくり返されたし...)

過去においてもこのパターンは繰り返されてきました。
私の世代より前の先駆者による資料も今の教理に対応できないものが
出てきています。しかし彼らの神に対する愛、勇気ある決断力、真実に対する
探究心がなければ、私はここにまとめた資料を用意することができませんでした。
私より前の世代にあたる方々に敬意と感謝の念を表します。
同時にこれから出てくるであろう次の世代に希望を託します。
イエスが言われた「光を掲げる」とはこのことです。

真理 真(しんり・まこと) 2007年

軽いコメント:

■最近、私はある若い証人と話していて、組織が最近(?)まで「世代の解釈を文字通り1914年から80年以内」だと主張していた事を知らなかったので軽いショックをおぼえました…。ガーン。自分が歳をとったものだと思います。にしても「今真理だと思っている教理」が実は一昔前までは真理じゃなかったわけですよ…。実は私も同じ要領で「1975年ハルマゲドン説」は特定のJWたちによる暴走論だと思っていました。だって出版物もベテル長老も「組織は当時そんなことっていなかった。ある人が勝手に来ると思っていただけだ」というんだもん…。組織は一度たりとも自分たちの解釈の間違いに対して謝罪をしたことはありません。にもかかわらず良心的に1914年を受け入れなかった本部の執筆委員の方々を傲慢として排斥しました。本当に傲慢なのは背教者なのか組織なのか聞きたいところです。みなさんはどちらをエホバが認められると思いますか？

付録: 決別の時

後悔の念を断ち切る:

■よく受ける質問: JWにも良い人たちが沢山いるのだから...。確かにいます。ただし**良い人がいるという事と組織が正しいかは全く別の話**です。ヤクザやオウムの中にも良い人はいます。あなたは交わりたいですか？

■現在たとえ不活発であっても、もしエホバに対して罪悪感や、ハルマゲドンへの恐れを持っているのであれば、あなたはまだ**「呪縛の囿りの中」**です。排斥であろうが心の中に常に不安があるのであればそれは呪縛です。大半の場合、本人は直感的にJWは真理じゃないと思っていたとしてもそれを論証するだけの知識を持っていません。結果的に「もしかしたら...」「サタンかも...」と思いながら平安のうちに過ごすことはできません。また真理を覆せるだけの確証を持っていないため、家族や以前の仲間から励ましの言葉を受けると「後ろめたさ」を感じます。しかし根拠があればむしろ自信とさわやかさを持って対処できます。

■上と同じ理由から、例えこの資料を読んで自分はJWの呪縛から解放されたと思って、**後悔の念やだまされたという思いがあるのであれば解約作業は終わったとはいえません**。なぜならそこに心の平安はないからです。正しく解約されると、そこに感謝の念が生まれます。ヤクザとカルトから脱退する時のルールは「感謝の念を持って足を洗う」です。**人生に起きることは全て無駄がありません。必ずそこには神から与えられた人生の課題に対する「学び」があります。**

自然消滅の方法:

■もしあなたの家族・親族にJWがいないのであれば**自己断絶**という選択肢はとりやくすくなります。一切煩わされません。しかしもしあなたの親族がJWであれば自然消滅がお互いのためです。もともと霊的に熱心でなければやりやすいのですが、そうでなければ簡単な方法はありません。ところが一つだけあります。**「燃え尽きてうつ病になった」**といえいいのです。うつ病の人を励ますのはよくないのと、もともと会衆の半分は燃え尽きてうつ病か慢性疲労症候群なので都合の良い理由になります。

■**移行時期の時間の稼ぎ方:** まずは**仕事・家庭で忙しい、健康上の理由をつけて特権から降ります**。奉仕はいかなくても牧羊訪問されない時間を書いて提出します(この時点でエホバにウソをついているもくそもないです)。

■理由をつけて会衆内のトラブルゆえに**「人につまづいた」**を強調します。泣きながら強い口調でいうといいです。長老たちは「人につまづいてバカだな」と思いつつも、仕方がないと思います。その後しばらく放っておいてくれといひます。

■**あなたが背教者になったという噂が立ってしまった場合、当人に直接電話して封じ込めてください**。「例え私が不活発であったとしても、排斥とか背教したというのは中傷であり、サタンの霊を持ち込んでいる。今すぐあなたがしゃべった人に訂正して謝ってまわれ」「なぜ私本人に確かめもせず噂をしてまわるのか。聖書の原則をやぶっているのはどっしなのか。誰から噂を聞いたのか教えてくれ。なぜ誰から聞いたのかいえない事を他人にいつてまわれるのか。聖書の原則通り当人と最初に話し合いたいので噂の源を教えてくれ。この様な中傷問題は由々しき問題なので支部に直接直訴するから、あなたの会衆名を教えてくれ」

誰を連れ出せるか:

■ノアの箱舟と同様、「意識の大患難」から救い出せるのは一握りだと思ってください。特に**あなたの直接の家族とは正面から話し合って論破するか、家族との断絶状態のいずれかになります**。特に結婚相手が一切聞く耳を持たない場合は離婚しか手段が残されていません。あなたが相手にしているのはオウムや創価学会と同じ「カルト信者」です。**常識や正論は通じない**と思っておいた方がいいです。強い家族愛が根底にないと難しいです。**感情的な議論の場面は極力避ける**ように。**直筆の手紙は効果あり**。

■あなたの中で最初に思い浮かぶ**真の友人**は解約できる可能性があります。心の友とまでいかない場合は触らないのが一番です。いずれにせよあなたの直感を頼りにしてください。少しでもヤバイと思ったら撤退してください。

付録:議論の作法

もしサタンが光の身使いに化けているのであれば、ものみ塔の霊がそれでないどうして分かるのか？
人類の99.9%が騙されているのに、自分だけが騙されていない保障はどこにあるのか？

議論の作法：（解約目的の時）

■解約された当初は興奮して周りに話したくなりますが、それは禁物です。あなたはヒヨコ同然なので「サタンだ」と罵倒されて議論上コテンパにされる上に噂がいきなり広まります。JWほど噂が好きな集団はありません。

■基本的にはあなたには二つの選択があります。**対象となる人物は「解約に値するかしないか」**です。本人は本当に真理を愛しているのか、あなたの心の友か、労力をかけてもやる価値がある人物か、チクらないと信用できるか等。**解約の対象でなければ一切の議論は避けてください。**もし解約すると決めたら正面からやるだけです。

■最初は**警戒心を与えないように**アプローチしてください。「JWは真理だと思っているのだが、どうしても拭いきれない疑問にゆきあたってしまったので、これに対する答えが欲しい。」といってJW解約資料(①と③が効果的です)を紙でその場で見せます。ただし紙を渡したりメールやりとりで証拠を残すことは避けてください。いずれにしても基本は「**先制攻撃**」のみです。ヒントだけ与えると警戒心の壁を立てられてゲームオーバーになります。また噂が広がるのは早いので本当に行動を起こす時は「**同時多発テロ**」しかありません。狙いのリストは間髪を要せず短い期間にアタックしてください。そうしないと噂の連絡網に友人がやられてしまいます。そしてお祈りはしっかりと。

■もし相手に解約資料を見せても「**組織がいずれかは正される**」の一点張りであれば、**解約できる見込みはない**です。深追いしないで、「自分はエホバを愛しているので不安ななったけど、兄弟のおかげで励まされた」といって感謝とお詫びの言葉で撤退。

絶対に効く魔法の言葉：（解約目的でなく自分を防衛しないといけない立場におかれた時）

■「言葉の先制攻撃」も有効です。先に言ったもん勝ちというやつです。

『それはエホバに対する冒涇だ』『それは聖霊に対する冒涇だ』『サタンに利用されますよ』

相手に「背教者」呼ばわりするとあなたの形勢が不利になりますので、その前に牽制をかける必要があります。例えばこのような感じでいう事ができます：「兄弟、聖書のどこのいそだと書いてあるのですか？神の言葉を踏み越えて語るとエホバへの冒涇になりますよ。」「姉妹、聖書の言葉を完全に理解していないのに、他の人を裁いたりすると聖霊に対する冒涇にあたりますよ。」「姉妹、私は聖書から語っているだけで背教的なことはいっていないのに、私に関する噂を広めるのは中傷でありサタンですよ。」

■証人たちは預言や教理の矛盾点をつっこまれると「私たちも完全には理解していない。答えは樂園待ちだ」といいます。

『なぜエホバのご意思を100%理解していないのに、あなたの方が100%正しいと言い切れるのでしょうか？』

■絶対にあなたから答をいってはなりません。1914年、天的級などに関する矛盾点に関して「あなたはどの理解しているのか」と質問をします。もし「兄弟は批判的ですよね」といわれたら、「私は何もいっていません。あなたがそういつているんじゃないですか。あなたはもしかしてこれらの教理を理解していないで伝道しているのですか？それはエホバに対して不実ではありませんか」と切りかえます。

クリーンな議論の基本： あげ足をとられない。証拠を残さない。相手に弁明させる。

付録: 解約と浄化

ここに書いてある事は多分他のサイトで扱われる事はないと思いますが、特定の少数の方にとっては非常に重要なのでここに書いておきます。スピリチュアル的な側面からの話となりますので、そういう類を信じない方は忘れて下さってOKです。(証人たちは心霊術だとかいいますが、奴隷級が「霊を受けて」いること自体が心霊です。(英語では何の事はなく「Spiritual＝霊的」といっているだけです。)

解約されると何が起きるのか:

■ごく稀ですが、特定の人には解約資料を読まなくても、突然予期しない時に「**覚醒**」する場合があります。人によって幻を伴う場合があります。いずれにせよ、映画マトリックスのような自体になります。ある人には起きるのでここに明記しておきます。

■なぜ人は宗教に入り、宗教をやめるのか...。目に見える物質界の次元で見れば「説得されたから」などの説明が付きまします。しかし実際には「**魂**」と「**エネルギー**」が関係しています。物質界と霊界は表裏一体であると思ってください。三次元で起きる事は必ず霊的な次元でも別の理由が動いています。

■人が宗教に出入りする際にはあなたの精神を超えた潜在的な「**魂**」の**意思**が働いています。従ってその人の魂がこの宗教にいと決め込んでいる時はどうやってもその人を解約できません。ですので**誰を解約すべきかは注意**してください。又、人を動かすのはエネルギーの力関係も働きます。他人を解約するためにはあなた自身が**不動であることが重要**です。

■実際に解約されると本人の魂から霊的な毒素が抜けるために「**放電状態**」が起きます。そうすると2ヶ月程やたらと**ダルイ感覚**になり**長時間寝る**ようになります。このだるさは骨からくるような特有のものです(クーラーで冷やしすぎたまま寝覚めたような感じです)。またあなたが介入して誰かを解約するとその人の影響が来ますのでだるくなります。人によっては**鬱っぽく**なります。

■**霊的な浄化**を行うためには「**火**」が一番効きます。全ては無理なので代表的な出版物を数冊燃やすといいです。その際にはものみの塔の霊に対する感謝をしつつ燃やしてください。**霊に対しても礼儀**を示す事は大切です。

■解約されて組織から離れる時にドラスティックな変化を起こすと、「**慣性の法則**」により抵抗が大きくなります。水の流れに対してビート版を立てるようなものです。エネルギーの小さい方は少しずつスムーズに移行していった方が無難です。

■組織から離れる時には必ず霊による「**引き戻し**」作業が働きます。仲間から泣きつかれたり激怒されたりするでしょう。

あと、「やっぱりサタンかもしれない」といった事を思わせる事が起きます。

■一番仲の良い友人が偶然、同じ時期に自然に解約される時があります。これを**シンクロ**といいます。

JWのそうだったのか:

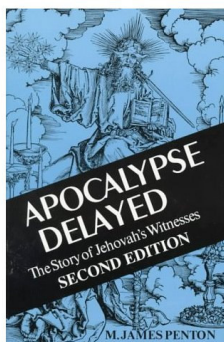
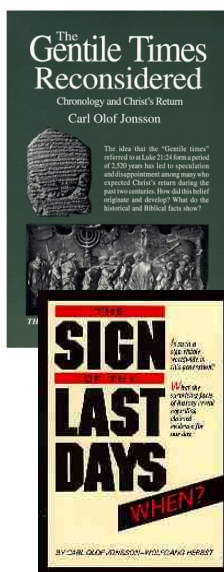
■一世の方であるならば思い出してください。大抵の方は証人と研究を始める直前に複数の宗教等から勧誘を受けていた可能性が高いです。人が望むとそれが実現するというのは本場で、「こんな神・真理・宗教がほしい!」と強く願うと、その欲求を満たすために**複数の霊が営業**にきます。

■人が**何かを信じるとそこにエネルギーが発生し具体化**します。大半の証人たちは「全てサタン」と信じているので、本人にとってサタンが現実化します。毎日起きても寝ても「あれはサタンだ、これはサタンだ」というようになります。サタンを意識している間はエホバに意識がいていないので、あたかもエホバよりサタンと毎日生活しているかようになります。

■**何かに抵抗するとそこにエネルギーが発生し、最終的にはその人を圧倒**します。「**善を追い求めれば求めるほど悪が強くなります**」。証人たちは非常に高い道徳を求めるので些細な事も悪として許せなくなります。結果的に本人は自分の悪に圧倒されて寝込んでしまいます。そういった意味では仏教の「あるがままを全て受け入れる」という哲学も間違っていないです。

真実と探求①

このJW解約資料にある多くの情報はこれらの本をもとにまとめたものです。あるレベルを超えてしまうと歴史・統計学・考古学の分野になってしまいます。一般の人が独自でこれらの情報を調べるのは不可能に近いでしょう。そうやって考えてみると、私たち信者は事実を確かめもせず出版物の主張を鵜呑みにしている事になります。しかし下記の人たちは真実を愛するがゆえに研究を掘り下げた人たちです。インターネットがない時代に自分たちで足を使って調べた人たちです。彼らの探究心、努力、神に対する従順さには敬意を表したいと思います。一般信者の信仰は「真理(真実)」でなく感情論によって支えられているとしか思えません。これでは感情的に爆弾を落とすキリスト教国、感情的にテロを起こすイスラム国と変わりません。感情論で60億人が死ぬべきだと主張する教団ははるかにタチが悪いです。



■ **The Gentile Times Reconsidered** <http://tinyurl.com/2usrkf>

■ **Sign Of The Last Days When** <http://tinyurl.com/yt7b24>

Carl O. Jonsson 日本語 http://www.jwic.com/gentim_x.htm

1970年後半のこと、スウェーデンの長老であったジョンソンはある時、自分の個人研究のテーマを西暦前607年に選びました。ところが図書館にいて文献を調べれば調べるほど組織の提唱している数字に根拠がないように思えました。そこで組織に質問の手紙を送りますが、しばらくして組織から「これらの事は誰にもいわないように。また歴史的な研究は組織がするので個人でしないように」という返答がきました。また、ヨーロッパの支部により審理委員会にかけられます。その際に聞かれた質問は「歴史の事実がどうであれ組織を受け入れますか？受け入れませんか？」でした。この本ではあらゆる考古学・歴史学的観点からエルサレムの崩壊が西暦前607年前でなかった事を証明しています。またもう一冊は世の終わりのしるしが本当に1914年に始まっているのかに関してあらゆる歴史文献と統計数字から論証しています。

■ **本はここでもまとめて入手できます。**

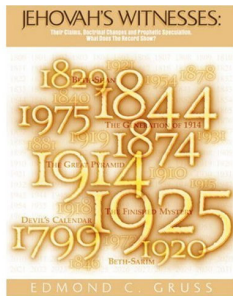
<http://www.freeminds.org/sales/menu.htm>

■ **Apocalypse Delayed: The Story of Jehovah's Witnesses** <http://tinyurl.com/yu92xg>

M. James Penton <http://www.xjw.com/penton.html>

ペントンは1900年から続くエホバの証人の家族の中に生まれました。70年代にペントンはカナダで大学で教鞭をとっていましたが、同時に医療委員会や支部のための広報活動も行っていました。ある時ペントンは学校のための研究課題として「カナダにおいてエホバの証人が貢献してきた公民権(信仰の自由)活動」を書きました。このレポートが大学に評価され、大学の資金でものみの塔の歴史に関する文献を書かないかと持ちかけられます。ペントンは喜んで組織の歴史を執筆のために調査しはじめました。これが彼の不幸の始まりでした。実際に蓋を開けてみると過去の出版物は教義・預言の無責任な変更と勝手な上塗りに満ちている事を発見します。また組織が様々なスキャンダルを隠蔽している事を知りショックを受けます。また長老である彼の息子が大学にいてという理由だけで不当な扱いを組織から受けました。それで組織にいくつかの事柄に関して質問状を送ったところ排斥におこまれてしまいました。この本では「世の終わり」の予言の適用は中世期から常に行われてきた歴史についてふれ、ラッセルの教義の由来を探ります。組織の歴史そのものを検証しているととても有用な本です。また彼は歴史的な文献としてエホバの証人がヒトラーに対してとっていた当時の記録をまとめています。 日本語 <http://www.jwic.com/hitler.htm>

真実と探求②

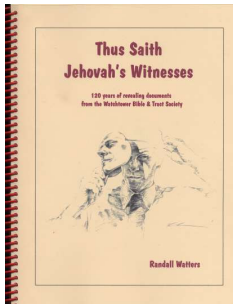


■ Jehovah's Witnesses: Their Claims, Doctrinal Changes, and Prophetic Speculation.

<http://tinyurl.com/ytsclv>

Edmond C. Gruss

1940年代にカルフォルニア州で若い時にエホバの証人となりましたが、後に自分とイエスの間に組織はいらないと思い距離を起きます。後にある知人から自分の子供がエホバの証人ゆえに大学の奨学金を受けたがらなくて困っているの
で組織に関して教えてほしいと相談されます。ところが当時エホバの証人に関する文献がなかったため、自分で過去
の教義や預言の変更を調べはじめる事にしました。その際に多くのスキャンダルを発見したため本にまとめます。ベツ
サレムやラザフォードのアルコール問題などを扱っています。当時の新聞記事や記録を掲載しています。

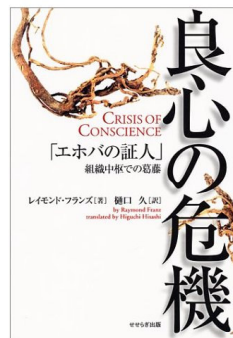


■ Thus Saith Jehovah's Witnesses: 120 Years of revealing documents from the Watchtower Bible & Tract Society

<http://www.freeminds.org/sales/menu.htm>

Randall Watters <http://www.freeminds.org/history/watters.htm>

1980年にブルックリンベテルで長老として奉仕していました。当時、統治体の中で1914年の教義に関して議論が持ち上
がっているという噂がでまわります。また統治体と執筆委員会の間に摩擦が生じる事を聞きます。例えば執筆委員会
は1世紀のクリスチャンの数からすると14万4,000人はすでに満席ではないのかという見解を持っていました。同時期に
ものみに塔8/15/1981 P28(英語のみ)に「出版物を使わないで、聖書のみで個人研究をすると背教的な教理に戻って
しまうのでそうしないように」という記事が発せられます。これは真に奇妙な主張だと思い後にガラテアの聖句をもとに
組織でなくイエスのみへの信仰が大切だという結論にいきます。この本では過去の出版物、組織内の手紙、当時
の新聞記事を全て証拠として集めて論証しています。



■ 良心の危機—「エホバの証人」組織中枢での葛藤 <http://tinyurl.com/27qpw8>

レイモンド・フランズ 日本語(本の要約があります) <http://www.jwic.com/franzbio.htm>

統治体であった時にスウェーデンのジョンソンから送られてきた1914年に関する手紙を受け取りました。フランズも「聖
書の助け」を執筆の時に独自の調査で前607年に問題がある事を気がついていましたので、ジョンソンの資料がよく調
べ上げられている事に感心しました。それで統治体の会議で一体紀元前607年の由来に関して聞きました。より古い統
治体はそれは組織の伝統であるとしました。それで1914年という数字を変える決議は取られましたが、結局組織の威
信に関わるという事で一票差で可決されませんでした。その後、フランズは執筆部門にいる事に良心の呵責を感じて
責任ある立場を辞退しました。その直後から1980年のブルックリン本部での「魔女狩り」がはじまり、ギリヤデの教訓者
であったダンロップ兄弟と共にベテルを追ひ出されました。「サタンのように傲慢になり」、エホバの時まで待たなかつた
のが理由です。あなたはどちらが傲慢だったと思いますか？



フランズ兄弟の本以外の本は英語でしか入手できません(しかもかなりぶ厚いので)、下記の小冊子をお勧めします。これらの本からの抜粋といった感じで日本語で分かりやすくまとめてあります。また他にもウッドさんによる本がありますが、あくまでも聖書だけの議論に徹していますので興味のある方はどうぞ。聖書の限界に関しては次の解約シリーズで扱います。キリスト教範囲で全ての真理を語るには限界があります。

■目ざめの時! (冊子) 1と2 <http://www.jesuscom.net/helpcult/book.htm>

ウィリアム・ウッド 日本語 <http://www.jesuscom.net/helpcult/whats.htm>

日本にきた牧師ですが、エホバの証人の再訪問を受けてから教義に関して調べ始めます。現在はマインドコントロールされている信者たちのリハビリみたいなプログラムを行っています。

組織はやたらとネットにうるさいハズです...(いつもエッチサイトといっしょにネットの危険性を説くのはイヤラシイです)

●エホバの証人情報センター http://www.jwic.com/home_j.htm

オレゴン在住の方による「先駆け」ともいえるサイトです。かなりの量の有用な文献があります。特に組織の歴史の資料はよくまとめられています。組織の生い立ちを知りたい方にはお勧めです。又、日本語では入手できない「異邦人の時」の資料なども揃っており、解約シリーズもお世話になっています。批判的な論争ではなく、あくまでも客観的に資料を通じて組織に関して説明している点がお勧めです。

世のおわりのしるし <http://www.jwic.com/compsign.htm>

組織の歴史 <http://www.jwic.com/history1.htm>

異邦人の時 http://www.jwic.com/gentim_x.htm

●1975年問題 <http://www.stopover.org/lib/Kanazawa/Shuen/index.html>

70年代の狂信的な「ムチ政策」を生き抜いてきた2世の貴重な体験談です(日本における先駆者ですね)。ここに書いてある事は一部の過激な人の経験談ではなく、どの証人の家族にも置きうる問題です。実際、文字通り組織の提案を当てはめるのが霊的であるとするならば「理想的」な話ですらあります。当時の1975年問題を扱っています。終わりが近いと組織が煽りはじめるとこのような光景は日常になります。

エホバの証人へ助言 - 「霊的」に組織に従順にとどまる方法

①個人研究をし過ぎない。 ②黙想をし過ぎない。 ③質問をし過ぎない。

⇒ つまり、いちいち考えるな。(だから大学行って頭良くなろうと思うな)